

湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

大学名 湘南医療大学
所 属 保健医療学部 看護学科
名 前 渡邊 眞理
作成日 2025 年 4 月 28 日

1. 教育の責任

私が所属する本学の保健医療学部は、生命の尊厳を基に科学的小および文化的専門知識・技術を身につけ、保健・医療・福祉・教育を総合的な視野で捉えられる看護師・保健師および理学療法士・作業療法士を育成し、地域社会はもとより、国際社会の発展に貢献できる人間を養成することを目的としている。私が担当しているのは看護学科であり、「専門科目」の中の「応用科目」と「発展科目」を担当している。以下担当している科目を示す。

科目名	旧・新カリ	対象学年	必須・選択	単位数 (時間数)	目標
成人看護学	新	2 年前期	必修	1 (30)	成人期にある人の身体的・心理的・社会的特徴を理解するとともに、成人期の人々に特徴的なライフスタイルや健康課題について学ぶ。急性期、回復期、慢性期、終末期といった様々な健康レベルにおいて看護に適用するための概念や理論について学修する。また成人期における罹患率が高いがん及び感染看護の概要と必要な概念理論を学ぶ。
成人看護方法論 I	新	2 年後期	必修	1 (30)	入院治療を必要とする成人期の患者の特徴を学び、合併症を予防し、回復を促進する円状の方法を学修する。急性発症あるいは慢性疾患の急性増悪により集中管理を必要とする人や周術期にある人の病態を学び援助に生かす。
リハビリテーション看護論	新	3 年前期	必須	1 (30)	リハビリテーションの理念を理解し、日本や海外におけるリハビリテーション看護について、歴史的変遷をふまえて基本的知識と技術を学修する。リハビリテーションチームの特徴とチームにおける看護の役割・機

					能について学修する。
看護管理学	新	3 年前期	必修	2(30)	看護専門職として管理に関する基礎的知識を修得し、看護管理上の問題を解決する方策の検討方法を学ぶ、(リーダーシップ、マネジメントを含む)また、医療の国際的動向と我が国の特色を理解し、医療システム、医療ケアの質に関する概念を学ぶ。看護者としてのリーダーシップ、調整、カウンセリング、コンサルタント、教育意志決定などの臨床実践能力を構築するための理論を体系的に学び、看護マネジメントに関する視点および実践能力を高める。
保健医療看護の最前線	新	4 年前期	選択	2(30)	社会で起こっている保健医療看護に関連した出来事について、基礎的知識を学ぶとともに、臨床現場での課題と対処について学修する。
慢性期看護実習	新	3 年後期	必須	6(270)	慢性疾患を抱えあらゆる場で療養・生活している対象者及び対処者を取り巻く人々がその人らしく生きることができるよう地域包括ケアにおける医療チームの一員として、安全かつ個々の健康の維持・増進とQOLの向上を目指した看護を学修する。また多職種の機能役割と相互連携および社会資源の活用について理解する。
統合実習	新	4 年前期	必修	3(135)	これまで学んだ知識・技術・態度を統合し、実践現場に近い体制の実習を通して医療チー

					ムの一員としての役割とその実 際について学修するとともに、 看護専門職としての自己の課 題を明確にする。
--	--	--	--	--	---

上記のように、専門科目の応用科目として位置づけられている臨床看護関連の科目を担当し、2年後期から4年前期にかけて、講義、演習、実習科目を展開している。看護学科の特徴である実践者を育成することを具体的に教授する科目を担当している。

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

本大学の理念は「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」である。大学の目的としては、「人とのふれあいを通して、他者を思いやり、生あるもの全てに感謝し、その人らしさを大切にする教育を実践し、すべての人々の幸せに役立つことを期する。」とある。この理念、目的に沿って、看護学教育を実践する。また本学の看護学科のディプロマポリシーは、【人間の命と個を尊重する力】【エビデンスに基づく実践力】【援助的コミュニケーション力】【チームで連携し協働する力】【安全を保障する力】【看護の発展に対応する力】の6つである。

卒業時に求められる学生像を意識し、私自身の臨床看護の経験を活かし、特に下記のことを教育の理念とする。

- ① 看護の対象である患者・利用者・ご家族の人としての権利を尊重し、擁護する看護師の役割を理解し、臨床看護領域の授業(講義・演習・実習)を通じて学生の倫理観を育成する。
- ② 看護師を志す学生ではあるが、無資格であるため、対象者の安全・安楽を優先した看護が実践できるような安全教育や教育場面を意図的に実施する。
- ③ 看護は実践の科学であることを重視し、講義や演習と実習での体験がつながるような一貫した教育方法を選択する。
- ④ 学生自身の学ぶ力を支援する。

成人教育の基本として、一方的に学ぶのではなく、教師と学生が相互に関わり合いながら学べるよう支援する。

2) 理念をもつに至った背景

私は今までの看護職としての経験で最も長いのが臨床看護師であり、中でも看護管理者としての経験が長い。その経験から大学や看護専門学校を卒業した新卒の看護師を多く育成してきた。大学教育、専門学校教育の差はあっても最終的には本人がどのような看護師を目指しているのか、そのために自分自身はどのような努力をするのか、臨床現場に求められる現任教育(集合教育と分散教育)では何が求められるか、その時々の新

卒看護師の個別のレディネスを大切にしながら現任教育を実施してきた。各人のレディネスは様々であったが、臨床現場で患者の看護を通して学んだことを自身で意味づけ、経験を重ねていくことが重要であると感じていた。

また教育経験の中には看護教員養成課程の専任教員の経験が5年あり、看護教員を約400人育成している。看護基礎教育には看護専門学校の専任教員経験3年、大学教員経験約9年である。

看護教員養成課程では人間関係論、看護教育課程論(どのような看護師を育てたいか、そのために必要な教育理念、どのようなカリキュラムが必要かを検討)、教育論、教育方法論、教育方法演習、看護実習、教育実習等を看護教員養成課程の専任教員として担当してきた。看護教員養成課程の初期段階で位置づけていた看護実習では、看護教員養成課程の研修生が、それまでの臨床看護経験とは異なる領域で実習をすることで、自分自身の看護観を明らかにしていくプロセスが重要であった。また看護学生と教師の教授過程の相互作用が重要であり、「教えることは学ぶこと」という教育の本質を実感した。看護教育活動の中でも臨地実習は、看護学生が机上で学んだ看護の知識を「これが、看護なんだ」と学生自身が意味づけることで、臨地実習で体験した多くの素材の中から、意味ある経験にすることができる。その過程では、教師が意図をもって「教材化」をする必要がある。そのための授業の構成要素「ねがい」「教育目的」「学習者の実態」「教授方略」「教育環境・条件」「教材研究」を明確にしていくことが重要である。臨地実習は看護学生にとって、机上では学ぶことができない貴重な経験をする場であり、私自身の教育観として臨地実習は机上で学んだ学習事項を意味づけ統合する場であると考えている。

また私はがん看護専門看護師の資格を有している。その経験から、看護の中心的概念は倫理であり、医療の受け手である患者の権利を擁護することがその役割に多く求められる。そのため看護学生の倫理観を育成することを理念としている。

3. 教育の方法・戦略

教育の方法は上記の教育の理念に基づき、看護師を志す学生に対して、できるだけ具体例を示し、イメージできるような教材を活用している。看護師に求められる基本的姿勢や疾患を持つ患者・家族が必要な看護につながるようなヘルスアセスメント、具体的な看護について学生自身が主体的に考えられるような仕組みを教育方法に取り入れている。

① 看護を必要とする対象のとらえ方を学ぶ機会をつくる

優しく寄り添うだけでなく、対象である患者・家族に必要な看護や医療についての基礎的な知識を関連させて、今後起こりうる健康上の問題も含めてアセスメントできる力を育成する。

② 安全で安楽な看護技術を実施できるような教育支援をする

無資格の学生が患者に安全で安楽な看護技術を実施するために、周術期患者の看護であれば、術後のドレーンが身体のどの部分に挿入されているか、目的は何か、その

ことに関連したインシデントやアクシデントは何か、何に気をつける必要があるか、観察項目は何か、が想起できるような授業(講義・演習)の展開をしている。

③ 患者が入院中や在宅療養での様々な意思決定ができるような意思決定支援の方法を学ぶ機会をつくる。

意思決定するのは患者本人であることをまず抑える。学生は人生経験も少ないため、相手の思いを慮ることが困難なことがある。高齢者等、対象者が今までの人生で大切にしてきた価値観を確認し、日常生活の中での意思決定の支援方法を学ぶ。また自分自身のことができなくなっている状態の患者や利用者の人としての尊厳が保つことに看護師は多くかかわる機会があるため、対象者が人としての尊厳を保つために何ができるかについて、学生自身が考える機会をつくる。

そのためにグループワーク等、学生が主体的に参加し、自分自身の考えを持てるよう体験を通してアクティブラーニングを取り入れている。必要により既存の DVD を活用し、工夫している。

④ 自らの臨床看護経験を活かして学生に看護を伝える

講義など、具体的な事例について、学生が理解できる言葉を用いて講義を展開する。私は多くの臨床経験があるが、授業も単元、目的・目標に沿った内容を吟味し、教材分析をし、私自身の看護観を語ることをしている。そのことにより学生自身が自ら看護観を持つことの動機付けなる。

⑤ 授業以外の諸活動

授業以外の諸活動は、主に看護学科の教務委員会で教務委員長を担当し、学生の単位履修が円滑に進み、卒業要件を満たすよう、問題点を早期に把握し、学科長や教務担当事務、他の教務委員等と協働し、対策を講じている。また学生の就職支援プロジェクトチームの一員として、学生に就職支援の情報提供や合同就職説明会などの企画・運営をしている。

個々の学生については昨年度は4年生のチューターとして、担当学生 9 名の学習支援、学生生活の支援を行ってきた。

⑥ 自己研鑽

看護専門領域はがん看護である。関連学会として一般社団法人日本がん看護学会 監事、一般社団法人高度実践看護学会会員 CNSあり方検討会委員、特定非営利活動法人日本緩和医療学会会員、一般社団法人サイコオンコロジー学会 会員、日本がんサポーターケア学会会員、日本老年腫瘍学会 監事、日本 NPO 法人がん医療研修機構、がんサバイバーネット 会員等で自己研鑽をしている。また看護教育に関しては、公益社団法人日本看護科学学会 会員、一般社団法人日本看護教育学会 会員、一般社団法人看護管理学会 会員で自己研鑽をし、学部生や大学院生の教育に活かしている。

4. 学習成果

担当科目についての学生の評価(令和6年度)を下記に示す。全てオムニバス形式であり、個人評価ではない。成人看護学は、概念や理論を学ぶ内容が多いため若干、評価が低い項目がある。また体験型学習が取り入れにくい科目でもある。

	成人看護学	看護学科平均
意欲的に受講したか	4.33	4.38
内容を理解したか	4.26	4.28
考え方、能力、知識、技術等が向上したか	4.32	4.35
学ぶ意欲は湧いたか	4.16	4.26
課題を発見し探究心が付いたか	4.04	3.18
教員の熱意	4.41	4.51
教え方は分かりやすかったか	4.07	4.23
教員とのコミュニケーションは取れたか	3.77	4.21
板書、配布物、定時資料は読みやすいか	4.06	4.16
教員は勉強環境に配慮したか	4.14	4.28
総合的に判断し良い授業だったか	4.25	4.43

上記のように、看護学科平均とほぼ変わらない結果であった。

5. 改善のための努力

授業科目

生活体験が乏しく、特に高齢者と話す経験が少ない学生が対象者にあったコミュニケーション能力、対象者に必要な病態の理解、ヘルスアセスメント、ナーシングプロセスが展開できることを意識し、国家試験問題にも関連させた授業内容の検討を継続する。

授業⇒演習⇒実習の一連の関連を学生が意識できるような動機付けをする。

「成人看護学」以外はオムニバス方式で講義を担当しているため、各講義はリアクションペーパーの内容により評価している。具体的な事例の看護について紹介したり、視聴覚教材を多く用いることは生活体験が少ない学生にとってイメージしやすさにつながっていた。

6. 今後の目標

新年度から新カリキュラムのみの運用となる。教授科目(実習含む)について「改善の努力」に記載した内容を、本年度後期科目に活かし、学生評価の得点の向上を目指す【短期目標】。また次年度の授業科目(実習含む)に反映させ、学生評価の向上と全体のGPAの向上、国家試験合格率の向上を目指す【長期目標】。

また令和7年度から看護学科の全学年定員が140名になったことから、大人数でも効果的な学習ができるような工夫をしていく。

【添付資料】

資料1. シラバス:成人看護学、成人看護方法論Ⅰ、看護管理学、リハビリテーション看護論、
保健医療看護の最前線、統合実習

資料2. 授業評価アンケート:令和6年度 成人看護学
成人看護学リフレクションペーパー

授業科目の名称		必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配 当 年 次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
成人看護学 Introduction to Adult Nursing		必修	講義・演習	1単位 (30時間)	2年前期	渡邊眞理・渡部節子・内藤亜由美	○
ナンバリングコード	HNSD2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後及びメールで受け付ける				
授業科目区分		卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目Ⅱ		DP1)人間の命と個を尊重できる力 DP3)援助的コミュニケーション力 DP4)チームで連携し協働する力					
応用科目							
授業概要	成人期にある人の身体的・心理的・社会的特徴を理解するとともに、成人期の人々に特徴的なライフスタイルや健康課題について学ぶ。そして、急性期、回復期、慢性期、終末期といった、さまざまな健康レベルにおける看護に適用するための概念や理論について学修する。また、成人期における罹患率が高いがん及び感染看護の概要と必要な概念・理論を学ぶ。						
到達目標	1)ライフサイクルからみた成人期にある人の状況と成人看護の概要について説明できる。 2)成人期の身体的・心理的・社会的特徴と健康問題、看護について説明できる。 3)成人期にある人のさまざまな健康レベルと、健康レベルに応じた看護アプローチの基盤となる概念や理論を説明できる。 4)成人期における罹患率が高いがん及び感染に関する看護の概要と必要な概念、理論を学ぶ。						
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）					担当教員
1	成人看護学の概要 成人期にある人の特徴	コースガイド、成人期のとらえ方、成人看護の概要、健康レベル 成人期にある人の理解（発達段階・課題、成人各期における身体的・心理的・社会的特徴） 事前学習：該当する教科書の箇所を読んでくる。（20分） 事後学習：講義資料等の復習をする。（30分）					渡部節子
2	成人保健 成人期にある人の生活と健康	成人期にある人の生活に関連した特有な健康問題、健康をおびやかす要因 事前学習：該当する教科書の箇所を読んでくる。（30分） 事後学習：講義資料等の復習をする。（30分）					渡部節子
3	生活と健康を守りはぐくむシステム	保健・医療・福祉システム、システムの連携 事前学習：該当する教科書の箇所を読んでくる。（30分） 事後学習：講義資料等の復習をする。（30分）					渡邊眞理
4	成人期の健康レベルや状態に応じた看護 ヘルスプロモーション	成人の健康レベルや状況に応じた看護、ヘルスプロモーション 事前学習：該当する教科書の箇所を読んでくる。（30分） 事後学習：講義資料等の復習をする。（30分）					渡部節子
5	成人期にある人に対する基本的な看護アプローチ（健康生活の急激な破綻から回復；急性期とは）	急性期に関する理解、急性期に必要な概念と理論とは 事前学習：該当する教科書の箇所を読んでくる。（30分） 事後学習：講義資料等の復習をする。（30分）					内藤亜由美
6	成人期にある人に対する基本的な看護アプローチ（健康生活の急激な破綻から回復；看護に必要な概念と理論）	必要な概念と理論（ストレスコーピング理論、危機理論） 事前学習：該当する教科書の箇所を読んでくる。（30分） 事後学習：講義資料等の復習をする。（30分）					内藤亜由美
7	成人期にある人に対する基本的な看護アプローチ（健康生活の急激な破綻から回復；看護に必要な概念と理論）	必要な概念と理論（生体侵襲理論） 事前学習：該当する教科書の箇所を読んでくる。（30分） 事後学習：講義資料等の復習をする。（30分）					内藤亜由美
8	成人期にある人に対する基本的看護アプローチ（障害）	回復期に関する理解、必要な概念と理論（ICF、障害受容） 事前学習：該当する教科書の箇所を読んでくる。（30分） 事後学習：講義資料等の復習をする。（30分）					渡部節子
9	成人期にある人に対する基本的看護アプローチ（リハビリテーション看護）	回復期に関する理解、必要な概念と理論（リハビリテーション看護） 事前学習：該当する教科書の箇所を読んでくる。（30分） 事後学習：講義資料等の復習をする。（30分）					渡部節子
10	慢性的な看護とは	慢性期に関する理解、必要な概念と理論（病みの軌跡、セルフケア） 事前学習：該当する教科書の箇所を読んでくる。（30分） 事後学習：講義資料等の復習をする。（30分）					渡部節子
11	慢性期の人に対する基本的な看護アプローチ	慢性期に関する理解、必要な概念と理論（自己効力理論、アンドラゴジー） 事前学習：該当する教科書の箇所を読んでくる。（30分） 事後学習：講義資料等の復習をする。（30分）					渡部節子
12	成人期にある人に対する基本的な看護アプローチ（終末期の理解、終末期の患者の看護、倫理的問題）	終末期に関する理解、終末期の患者の看護、倫理的問題 事前学習：該当する教科書の箇所を読んでくる。（30分） 事後学習：講義資料等の復習をする。（30分）					渡邊眞理

13	成人期にある人に対する基本的な看護アプローチ(終末期の患者・家族の全人的苦痛緩和、意思決定支援)	終末期の患者・家族の全人的苦痛の緩和、意思決定支援 事前学習: 該当する教科書の箇所を読んでもくる。(30分) 事後学習: 講義資料等の復習をする。(30分)	渡邊眞理
14	成人期にある人に対する基本的な看護アプローチ(がん看護)	がん治療とその看護に関する理解、がん看護の特徴、緩和ケア・意思決定支援 事前学習: 該当する教科書の箇所を読んでもくる。(30分) 事後学習: 講義資料等の復習をする。(30分)	渡邊眞理
15	成人期にある人に対する基本的な看護アプローチ(感染看護)	感染看護に関する理解、必要な概念と理論(感染症と法律、隔離、人権) 事前学習: 該当する教科書の箇所を読んでもくる。(30分) 事後学習: 講義資料等の復習をする。(30分)	渡部節子

評価	定期試験40%、各講義でのテストや提出物60%
課題に対するフィードバックの方法	提出物については全体の講評を授業内で学生に伝える。
教科書	成人看護学総論 小松浩子 井上智子 麻原きよみ 他4名 医学書院 第16版 ISBN:978-4-260-04701-2
参考図書など	適宜紹介する
アクティブラーニング	講義の中でグループワーク、ディスカッションを行い、主体的に学習できるように構成されている。
実務経験のある教員による授業	成人を対象とした急性期看護、慢性期看護の豊富な経験を有する教員や、がん看護専門看護師の資格などを有する教員が各授業を担当する。
留意事項	「成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ」、さらに「急性期・慢性期看護実習」の学習の基盤となるものである。学習を積み重ねられるよう、ノートを作成を推奨する。講義毎のリフレクションペーパーの提出がない場合、出席扱いにはしない。授業中の私語を慎むこと。

授業科目の名称		必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
成人看護方法論Ⅰ Adult Nursing Methodology Ⅰ		必修	講義・演習	1単位 (30時間)	2年後期	山勢善江・渡邊眞理・内藤亜由美・清水奈緒美・ 櫻井友子・岡多恵・坂口達哉	○
ナンバリングコード	HNSD2	オフィスアワー		本科目に関する質問は、授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分		卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目		DP2)エビデンスに基づく実践力 DP3)援助的コミュニケーション力 DP4)チームで連携し協働する力					
応用科目							
授業概要	入院治療を必要とする成人期の患者の特徴を学び、合併症を予防し、回復を促進する援助の方法を学修する。 急性発症あるいは慢性疾患の急性増悪により集中治療管理を必要とする人や周手術期にある人の病態を学び援助に活かす。						
到達目標	1)生命危機状況にある人、様々な疾患により侵襲的治療を受ける人とその家族の特徴を述べることができる 2)生命を維持し、侵襲に対する反応を最適化し、回復を促進するための援助を具体的に述べることができる 3)周手術期、救急、重症集中領域で治療を受ける人の事例に対して、看護問題を根拠に基づいて列挙することができる 4)慢性疾患の急性増悪により治療が必要となる人の事例に対して、看護問題を根拠に基づいて列挙することができる						
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）					担当教員
1	科目ガイダンス 急性期とは	この科目で学ぶこと、履修のルール 急性期ケア・周術期ケア、救急看護の概念、患者やその家族の特徴、手術侵襲と生体反応 事前学習(30分)教科書1第6章を読む 事後学習(60分)授業まとめの課題					山勢善江
2	周手術期ケア(1)	手術前患者の看護、手術中患者の看護、手術後患者の看護、術後合併症予防 事前学習(30分)教科書9第6～9章を読む 事後学習(60分)授業まとめの課題					山勢善江
3	周手術期ケア(2)	手術後患者の看護、術後合併症予防 事前学習(30分)教科書9第6～10章を読む 事後学習(61分)授業まとめの課題					山勢善江
4	創傷治癒の特徴	創傷治癒を促進する看護 事前学習(30分)教科書9第1章の該当する部分を読む 事後学習(60分)授業まとめの課題					内藤亜由美
5	循環機能障害のある人の看護 (1)	循環機能障害をきたす病態(心不全)の治療と看護 事前学習(30分)教科書3、10の該当する部分を読む 事後学習(60分)授業まとめの課題					坂口達哉
6	循環機能障害のある人の看護 (2)	循環機能障害をきたす病態(急性冠症候群)の治療と看護 事前学習(30分)教科書3、11の該当する部分を読む 事後学習(61分)授業まとめの課題					坂口達哉
7	循環機能障害のある人の看護 (3)	循環機能障害をきたす病態(弁膜症など)の治療と看護 事前学習(30分)教科書3、11の該当する部分を読む 事後学習(61分)授業まとめの課題					坂口達哉
8	呼吸機能障害のある人の看護 (1)	呼吸機能障害をきたす病態(急性呼吸不全)の治療と看護 事前学習(30分)教科書2、10の該当する部分を読む 事後学習(60分)授業まとめの課題					清水奈緒美
9	呼吸機能障害のある人の看護 (2)	呼吸機能障害をきたす病態(肺がん)の治療と看護 事前学習(30分)教科書2、12の該当する部分を読む 事後学習(62分)授業まとめの課題					清水奈緒美
10	呼吸機能障害のある人の看護 (3)	呼吸機能障害をきたす病態(肺炎)の治療と看護 事前学習(30分)教科書2、12の該当する部分を読む 事後学習(62分)授業まとめの課題					清水奈緒美
11	中枢神経機能障害のある人の看護 (1)	意識障害をきたす病態(AIUEOTIPS)と看護 事前学習(30分)教科書6、10の該当する部分を読む 事後学習(60分)授業まとめの課題					櫻井友子
12	中枢神経機能障害のある人の看護 (2)	中枢神経機能障害をきたす病態(脳卒中、脊髄損傷)の治療と看護 事前学習(30分)教科書6、10の該当する部分を読む 事後学習(60分)授業まとめの課題					櫻井友子

13	中枢神経機能障害のある人の看護(3)	中枢神経機能障害をきたす病態(脳卒中、脊髄損傷)の治療と看護 事前学習(30分)教科書6、10の該当部分を読む 事後学習(60分)授業まとめの課題	櫻井友子
14	消化・吸収機能障害のある人の看護	消化・吸収機能障害をきたす病態(胃がん)の治療と看護 事前学習(30分)教科書5、10の該当部分を読む 事後学習(60分)授業まとめの課題	岡多恵
15	ボディイメージの障害をきたす人の看護	乳がん、子宮がんについて、その治療と看護 事前学習(30分)教科書7、10の該当部分を読む 事後学習(60分)授業まとめの課題	渡邊眞理

評価	筆記試験80%、課題等の提出物20%
課題に対するフィードバックの方法	提出物については全体の講評を授業内で学生に伝える。
教科書	1. 系統看護学講座成人看護学①成人看護学総論/小松浩子他/医学書院/第16版/ISBN:9784260047012【第1回講義で使用】 2. 系統看護学講座成人看護学②呼吸器/朝倉啓介他/医学書院/第16版/ISBN:9784260053099【第8、9、10回講義で使用】 3. 系統看護学講座成人看護学③循環器/吉田俊子他/医学書院/第16版/ISBN:9784260053112【第5、6、7回講義で使用】 4. 系統看護学講座成人看護学④消化器/南川雅子他/医学書院/第16版/ISBN:9784260035620【第14回講義で使用】 5. 系統看護学講座成人看護学⑦脳・神経/井手隆文他/医学書院/第16版/ISBN:9784260035613【第11、12、13回講義で使用】 6. 系統看護学講座成人看護学⑨女性生殖器/末岡浩他/医学書院/第16版/ISBN:9784260035675【第15回講義で使用】 7. 系統看護学講座成人看護学⑩運動器/田中栄他/医学書院/第16版/ISBN:9784260035651【第13回講義で使用】 8. 系統看護学講座別巻臨床外科看護総論/池上徹他/医学書院/第12版/ISBN:9784260049986【第2、3、4回講義で使用】 9. 系統看護学講座別巻臨床外科看護各論/北川 雄光他/医学書院/第10版/ISBN:9784260049900【第5～12、15回講義で使用】 10. 系統看護学講座別巻救急看護学/山勢博彰他/医学書院/第7版/ISBN:9784260032544【第13回講義で使用】
参考図書など	適宜紹介する
アクティブ・ラーニング	適宜、急性期事例を用いて、グループワークやディスカッションを行う。
実務経験のある教員による授業	成人を対象とする急性期看護の経験を持つ教員が授業を担当する。
留意事項	1) 既習科目(成人看護学)の知識を基盤にして、周術期、急性期にある成人に対する看護を学習する。 2) この科目は各実習の学習の基盤となるため、資料やノートを後に活用できるようにわかりやすく整理しておくこと。 3) 毎回必要な教科書を確認して持参すること。 4) 講義毎のリフレクションペーパーの提出がない場合出席扱いにはしない。 5) 授業中の撮影および録音は禁止する。 6) 携帯電話類は電源を切ってバッグにしまう。 7) 私語は禁止。 8) ルールを守らない場合は退室を指示することがある。

授業科目の名称		必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
看護管理学 Nursing management		必修	講義	2単位 (30時間)	3年前期	松月 みどり、渡邊真理	○
ナンバリングコード	HNSD1	オフィスアワー		本科目に関する質問は、授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分		卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目		DP4)チームで連携し協働する力 DP5)安全を保障する力					
基盤科目		DP6)看護の発展に対応する力					
授業概要	看護専門職として管理に関する基礎的知識を修得し、看護管理上の問題を解決する方策の検討方法を学ぶ、(リーダーシップ、マネジメントを含む)また、医療の国際的動向と我が国の特色を理解し、医療システム、医療ケアの質に関する概念を学ぶ。看護者としてのリーダーシップ、調整、カウンセリング、コンサルタント、教育意志決定などの臨床実践能力を構築するための理論を体系的に学び、看護マネジメントに関する視点および実践能力を高める						
到達目標	1)病院組織及び看護部門組織を理解する 2)看護サービスの管理について理解する 3)医療の質保証(医療安全)を理解する						
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)					担当教員
1	看護管理学総論 ガイダンス	看護管理学と経営管理の枠組み 看護組織お特徴 授業ガイダンス 事前学習(30分):教科書の該当部分を読み整理する 事後学習(30分):課題レポート①の作成					松月みどり
2	看護管理者とリーダーシップ	リーダーシップとメンバーシップ マネージャーの役割と行動 事前学習(30分):教科書の該当部分を読み整理する 事後学習(30分):課題レポート②の作成					渡邊真理
3	人的資源管理	看護職員教育 ラダー キャリアマネジメント 事前学習(30分):教科書の該当部分を読み整理する 事後学習(30分):課題レポート③の作成					渡邊真理
4	看護提供方式	機能別看護、チームナーシング、プライマリーナーシング、セル看護、 事前学習(30分):教科書の該当部分を読み整理する 事後学習(30分):課題レポート④の作成					松月みどり
5	器材、物品、消耗品管理	資源管理 経費管理 SPD DiNQL 他職種との連携 事前学習(30分):教科書の該当部分を読み整理する 事後学習(30分):課題レポート⑤の作成					松月みどり
6	労務管理 勤務スケジュール管理	働きやすい職場づくり シフトワーク 勤務表作成 事前学習(30分):教科書の該当部分を読み整理する 事後学習(30分):課題レポート⑥の作成					松月みどり
7	看護師へのキャリア支援1	実習施設紹介等を通して看護師としての多様な働き方を学ぶ 看護学科が主催する合同就職説明会に参加する					松月みどり 渡邊真理
8	看護師へのキャリア支援2	実習施設紹介等を通して看護師としての多様な働き方を学び深める 看護学科が主催する合同就職説明会に参加する					松月みどり 渡邊真理
9	医療の質管理	医療・看護のデータ アウトカムマネジメント 事前学習(30分):教科書の該当部分を読み整理する 事後学習(30分):講義内容を復習する					松月みどり
10	医療安全管理 患者家族対応	医療事故裁判 医療事故届け出制度 高信頼性組織 事前学習(30分):教科書の該当部分を読み整理する 事後学習(30分):講義内容を復習しする。					松月みどり
11	医療安全管理 職員教育	チームステップス ノンテクニカルスキル 医療安全文化の醸成 事前学習(30分):教科書の該当部分を読み整理する 事後学習(30分):講義内容を復習する。					松月みどり
12	看護場面の具体的医療安全	6S ダブルチェック 医療事故報告書など 事前学習(30分):教科書の該当部分を読み整理する 事後学習(30分):講義内容を復習する。					松月みどり

13	GWによる検討①	グループ討論:提示するテーマについて、ディスカッション、PPの作成 事前学習(60分):グループワークの準備をする 事後学習(60分):グループワークの学習内容をノートにまとめる	松月みどり
14	GWによる検討②	グループ討論:提示するテーマについて、ディスカッション、PPの作成 事前学習(60分):グループワークの発表準備をする 事後学習(60分):グループワークの学習内容をノートにまとめる	松月みどり
15	GW発表	これまでグループワークで行ってきた議論を、グループ毎に発表をする。 事前学習(60分):発表準備をする 事後学習(60分):学習内容をノートにまとめる	松月みどり

評価	定期試験30%、提出物70%(講義後のリフレクションペーパー課題レポート、GWへの参加姿勢等を含む)
課題に対する フィードバックの方法	提出物については全体の講評を授業内で学生に伝える。
教科書	看護管理第11版/医学書院/ISBN:9784-260-05304-4 看護の統合と実践②医療安全/メディカ出版/第4版/ISBN:978-4-8404-7212-8
参考図書など	適宜紹介する
アクティブ・ラーニング	グループワーク ディスカッション プレゼンテーション
実務経験のある 教員による授業	病院の看護部長として管理を担っていた経験と、認定看護管理者教育課程の講師経験が複数年ある。看護管理学の基本的知識や活用について実践的な講義をする。大学病院では医療安全管理の実務経験や大学病院の事故調査外部委員も務めた。医療安全管理者の養成研修の講師をつとめ、厚生労働省の医療安全にかかる各種委員会の委員を歴任する。医療安全管理者の教育に携わった経験を持つ。
留意事項	アクティブラーニングに積極的に参加する事

授業科目の名称		必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
リハビリテーション看護論 Rehabilitation Nursing		必修	講義	1単位 (30時間)	3年前期	渡邊真理・内藤亜由美・伊藤ふみ子・ 佐々木千佳・清水奈緒美・三堀いずみ	○
ナンバリングコード	HNSD2	オフィスアワー		本科目に関する質問は、授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分		卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目		DP1)人間の命と個を尊重できる力 DP4)チームで連携し協働する力 DP5)安全を保障する力					
応用科目							
授業概要	リハビリテーションの理念を理解し、日本や海外におけるリハビリテーション看護について、歴史的変遷をふまえて基本的知識と技術を学修する。リハビリテーションチームの特徴とチームにおける看護の役割・機能について学修する。						
到達目標	1)リハビリテーションの理念を理解する。 2)日本や海外におけるリハビリテーション看護の歴史的変遷を学修する。 3)リハビリテーション看護の基本的知識と技術を学修する。 4)生活機能障害をもつ人の対象に応じた援助方法を理解できる。 5)リハビリテーションチームの特徴とチームにおける看護の役割・機能について学修する。						
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）					担当教員
1	リハビリテーション看護の展開に必要な概念と理論	リハビリテーションの理念 欧米と日本のリハビリテーションの歴史、ノーマライゼーション、ADL、IADLの理解、リハビリテーション看護に活用できる理論 事前学習(30分):リハビリテーション看護改訂第3版の該当部分を読む 事後学習(30分):講義資料等を復習する					渡邊 真理
2	経過別にみるリハビリテーション看護① 急性期	回復過程各期におけるリハビリテーション看護(急性期) 事前学習(30分):リハビリテーション看護改訂第3版の該当部分を読む 事後学習(30分):講義資料等を復習する					伊藤ふみ子
3	経過別にみるリハビリテーション看護②回復期・生活期	回復過程各期におけるリハビリテーション看護(回復期・生活期) 事前学習(30分):リハビリテーション看護改訂第3版の該当部分を読む 事後学習(30分):講義資料等を復習する					伊藤ふみ子
4	経過別にみるリハビリテーション看護③終末期	回復過程各期におけるリハビリテーション看護(終末期):緩和ケアとリハビリテーション 事前学習(30分):がん看護(医学書院)の該当部分を読む 事後学習(30分):講義資料等を復習する					三堀いずみ
5	経過別にみるリハビリテーション看護④がん	回復過程各期におけるリハビリテーション看護(終末期):がんリハビリテーション 事前学習(30分):がん看護(医学書院)の該当部分を読む 事後学習(30分):講義資料等を復習する					渡邊 真理
6	生活機能障害とリハビリテーションと看護①脳卒中	運動機能障害のある人へのリハビリテーション看護(脳卒中) 事前学習(30分):リハビリテーション看護改訂第3版の該当部分を読む 事後学習(30分):講義資料等を復習する					三堀いずみ
7	生活機能障害とリハビリテーションと看護②高次機能障害	高次機能障害のある人の看護(アセスメントと看護の実践) 事前学習(30分):リハビリテーション看護改訂第3版の該当部分を読む 事後学習(30分):講義資料等を復習する					伊藤ふみ子
8	生活機能障害とリハビリテーションと看護③脊髄損傷	脊髄損傷のある人の看護(アセスメントと看護の実践) 事前学習(30分):リハビリテーション看護改訂第3版の該当部分を読む 事後学習(30分):講義資料等を復習する					伊藤ふみ子
9	生活機能障害とリハビリテーション看護④排泄障害の病態	ストーマリハビリテーションの看護① 排尿障害と排便障害の基本的知識 事前学習(30分):消化器(医学書院)の該当箇所を読む 事後学習(30分):講義資料等を復習する					内藤亜由美
10	生活機能障害とリハビリテーション看護⑤排泄障害のケア	ストーマリハビリテーションの看護②排尿障害と排便障害の基本的知識と看護の実践 事前学習(30分):消化器(医学書院)の該当箇所を読む 事後学習(30分):講義資料等を復習する					内藤亜由美
11	生活機能障害とリハビリテーション看護⑥嚥下障害とは	嚥下摂食障害のある人の看護① 嚥下障害のアセスメント 事前学習(30分)リハビリテーション看護改訂第3版 事後学習(30分):講義資料等を復習する					佐々木千佳
12	生活機能障害とリハビリテーション看護⑦嚥下訓練	嚥下摂食障害のある人の看護② 嚥下訓練の実践 事前学習(30分)リハビリテーション看護改訂第3版 事後学習(30分):講義資料等を復習する					佐々木千佳

13	地域包括ケアシステムにおけるリハビリテーション看護	地域包括ケアシステムにおけるリハビリテーション看護の実際 事前学習(30分):リハビリテーション看護改訂第3版の該当部分を読む 事後学習(30分):講義資料等を復習する	清水奈緒美
14	施設内リハビリテーションチーム医療	施設内リハビリテーションにおける多職種連携 事前学習(30分):リハビリテーション看護改訂第3版の該当部分を読む 事後学習(30分):講義資料等を復習する	内藤亜由美
15	ピアサポート	障害をもつ人々の心理的支援:ピアサポートの意義 事前学習(30分):障害をもつ人々同士の支援であるピアサポート(患者会)にはどのようなものがあるか調べておく。 事後学習(30分):講義資料等を復習する	内藤亜由美

評価	筆記試験70%、課題等の提出物30%
課題に対するフィードバックの方法	課題に対して、適宜フィードバックを行う
教科書	1. 看護学テキストNICEリハビリテーション看護/酒井郁子他/南江堂/改訂第3版/ISBN:9784524246298【全講義で使用】 2. 系統看護学講座 別巻がん看護学/小松浩子他./医学書院/第3版/ISBN:9784260042161【第4・5回講義で使用】 3. 系統看護学講座 成人看護学⑤消化器/南川雅子他./医学書院第/15版, ISBN:9784260035620【第9・10回講義で使用】
参考図書など	適宜紹介する。
アクティブ・ラーニング	適宜、事例を用いて、グループワークやディスカッションを行う。
実務経験のある教員による授業	回復期リハビリテーション病棟を有する病院での臨床経験を活かして、リハビリテーション看護の基本的知識やアセスメントの方法を講義する。
留意事項	本科目は、すべての患者に必要とされるリハビリテーション看護の基本的な知識を獲得するものである。臨地実習時にも応用できるものであるため、主体的に取り組んで欲しい。

授業科目の名称		必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
保健医療看護の最前線		選択	講義	2単位 (30時間)	4年前期	山勢善江、片山典子、坂口達哉、渡部李菜、 渡邊眞理、ラウ優紀子、倉田慶子、山崎圭子、小林紀明 4年チューター教員	○
ナンバリングコード	HNS02	オフィスアワー		本科目に関する質問は、授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分		卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目		DP4) チームで連携し協働する力 DP6) 看護の発展に対応する力					
発展科目							
授業概要	社会で起こっている保健医療看護に関連した出来事について、基礎的知識を学ぶとともに、臨床現場での課題と対処について学修する。						
到達目標	1)がん、認知症、小児、周産期、メンタルヘルス、在宅、救急などの医療の最前線と喫緊の課題を理解する。 2) 自己の課題を明確にし対処する。						
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）					担当教員
1	コースガイダンス	1年後に医療者として働くことを想定し、専門性の高い領域での問題を明らかにする 事前学習：どのような領域で働きたいと考えているか、そこでは何が問題になっているか考えてくる 事後学習(30分)：事後課題に取り組む					山勢善江、片山 典子、坂口達 哉、渡部李菜
2	がん医療・看護の最前線	がん医療やがん看護における、最新の話題について理解する 事前学習(30分)：がん医療と看護に関して興味あることを考えてくる 事後学習(30分)：事後課題に取り組む					渡邊眞理
3	高齢者医療・看護の最前線	高齢者医療や高齢者看護における、最新の話題について理解する 事前学習(30分)：高齢者医療と看護に関して、興味あることを考えてくる 事後学習(30分)：事後課題に取り組む					ラウ優紀子
4	小児医療・看護の最前線	小児医療や小児看護における、最新の話題について理解する 事前学習(30分)：小児医療と看護に関して、興味あることを考えてくる 事後学習(30分)：事後課題に取り組む					倉田慶子
5	周産期医療・看護の最前線	周産期医療や周産期看護における、最新の話題について理解する 事前学習(30分)：周産期医療と看護に関して、興味あることを考えてくる 事後学習(30分)：事後課題に取り組む					山崎圭子
6	精神医療・看護の最前線	精神医療や精神看護における、最新の話題について理解する 事前学習(30分)：メンタルヘルスに関して、興味あることを考えてくる 事後学習(30分)：事後課題に取り組む					片山典子
7	在宅医療・看護の最前線	在宅医療や在宅看護における、最新の話題について理解する 事前学習(30分)：在宅医療と看護に関して、興味あることを考えてくる 事後学習(30分)：事後課題に取り組む					小林紀明
8	救急医療・看護の最前線	救急医療や救急看護における、最新の話題について理解する 事前学習(30分)：救急医療と看護に関して、興味あることを考えてくる 事後学習(30分)：事後課題に取り組む					山勢善江
9	分野ごとの学修戦略① ＜解剖生理分野＞	正常な人体の構造と機能について理解する。 事前学習(30分)：出題基準や参考書を熟読する。 事後学習(30分)：正常な人体の構造と機能についてノートにまとめる。					4年チューター教 員
10	分野ごとの学修戦略② ＜解剖生理分野＞	正常な人体の構造と機能について理解する。 事前学習(30分)：出題基準や参考書を熟読する。 事後学習(30分)：正常な人体の構造と機能についてノートにまとめる。					4年チューター教 員
11	卒業に向けた学修のまとめ①	卒業試験を実施し、看護師に必要な専門的な知識や技術の習得ができているかを客観的に評価 するとともに、国家資格に伴う責任と役割を考える。 ※卒業試験の受験資格は、看護応用ゼミの出席を要件(3/5以上)を満たしているものとする。 事前学習(60分)：看護師国家試験出題範囲を振り返っておく。 事後学習(60分)：看護師国家試験出題範囲を振り返っておく。					4年チューター教 員

12	卒業に向けた学修のまとめ②	卒業試験を実施し、看護師に必要な専門的な知識や技術の習得ができているかを客観的に評価するとともに、国家資格に伴う責任と役割を考える。 ※卒業試験の受験資格は、看護応用ゼミの出席を要件(3/5以上)を満たしているものとする。 事前学習(60分):看護師国家試験出題範囲を振り返っておく。 事後学習(60分):看護師国家試験出題範囲を振り返っておく。	4年チューター教員
13	卒業に向けた学修のまとめ③	卒業試験を実施し、看護師に必要な専門的な知識や技術の習得ができているかを客観的に評価するとともに、国家資格に伴う責任と役割を考える。 ※卒業試験の受験資格は、看護応用ゼミの出席を要件(3/5以上)を満たしているものとする。 事前学習(60分):看護師国家試験出題範囲を振り返っておく。 事後学習(60分):看護師国家試験出題範囲を振り返っておく。	4年チューター教員
14	卒業に向けた学修のまとめ④	卒業試験を実施し、看護師に必要な専門的な知識や技術の習得ができているかを客観的に評価するとともに、国家資格に伴う責任と役割を考える。 ※卒業試験の受験資格は、看護応用ゼミの出席を要件(3/5以上)を満たしているものとする。 事前学習(60分):看護師国家試験出題範囲を振り返っておく。 事後学習(60分):看護師国家試験出題範囲を振り返っておく。	4年チューター教員
15	卒業に向けた学修のまとめ⑤	卒業試験を実施し、看護師に必要な専門的な知識や技術の習得ができているかを客観的に評価するとともに、国家資格に伴う責任と役割を考える。 ※卒業試験の受験資格は、看護応用ゼミの出席を要件(3/5以上)を満たしているものとする。 事前学習(60分):看護師国家試験出題範囲を振り返っておく。 事後学習(60分):看護師国家試験出題範囲を振り返っておく。	4年チューター教員

評価	レポート50%、試験50%
課題に対する フィードバックの方法	提出物については全体の講評を授業内で学生に伝える。
教科書	指定しない
参考図書など	適宜紹介する
アクティブラーニング	学生は、ディプロマポリシーで謳われた6つの能力を確認しつつ、看護師国家試験で問われる基礎知識から、より専門性の高い領域での知識まで主体的・能動的に学修を総括する。
実務経験のある 教員による授業	専門性の高い教員各位が、実践や教育分野での最前線の講義を行う。
留意事項	

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験のある 教員による科目
統合実習 Practice In Intergrated	必修	実験・実習	3単位 (135時間)	4年前期	渡部節子、渡邊真理、その他看護教員	○
ナンバリングコード	HNSF3	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP4) チームで連携し協働する力 DP6) 看護の発展に対応する力					
臨地実習						
授業概要	これまで学んだ知識・技術・態度を統合し、実践現場に近い体制の実習を通して医療チームの一員としての役割とその実際について学修するとともに、看護専門職としての自己の課題を明確にする。					
到達目標	1) これまでの臨地実習での学びを振り返り、統合実習における自己の目標を説明できる。 2) 臨地での看護実践を通して看護に対する考えを深めたり、課題を追究することができる。 3) 医療チームの一員としての役割を説明することができる。 4) 看護専門職としての自己の課題を明確にできる。					
授業の進め方	1. 実習期間：3週間 2. 実習施設（予定） 湘南東部総合病院、茅ヶ崎中央病院、ふれあい鎌倉ホスピタル、康心会汐見台病院、ふれあい東戸塚ホスピタル、横浜ホスピタル、鶴見ホスピタル、大和成ホスピタル、さがみ野中央病院、こぶき共同診療所、横浜市寿福祉プラザ、寿アルク、横浜市生活自立支援施設、介護老人保健施設ふれあいの渚、介護老人保健施設ふれあいの桜、湘南ふれあいの園平塚、シニアホテル東戸塚イーストウイング、成和訪問看護ステーション、訪問看護茅ヶ崎ふれあいステーション、あやせ訪問看護ステーション 3. 実習方法 1) 4月：全体オリエンテーション 2) 5～6月：実習施設、実習部署決定、各担当者によるオリエンテーションと事前学習の説明 3) 7月：臨地実習開始 各担当者別に実習計画に基づいて臨地及び学内に実施 4) 臨地最終日：隣地における共有学修、まとめ 5) 各担当者ごとに振り返りとまとめの発表 4. 記録提出 担当教員より指示された日時までに提出する。 5. その他 評価は評価表に基づき実施する。					
評価	実習評価表に基づき評価する。、実習目標の達成度、記録内容、実習態度、カンファレンス参加状況を総合的に判断する。到達目標ごとの評価の割合は、1)10%、2)+、3)70%、4)20%である。					
課題に対する フィードバックの方法	その都度、状況や各自の課題に応じる					
教科書	これまで学修したテキスト、資料、検索した文献など					
参考図書など	実習オリエンテーションなどで適宜、紹介する。					
アクティブ・ラーニング	実習中、実習後などグループワークを行い、学修をさらに深める					
実務経験のある 教員による授業	担当教員は看護師としての臨床分野の経験を活かした実習指導を行う。					
留意事項	自分が深化、追究したい課題に向けての統合実習なので準備をしっかり行って臨んでください。看護学生としての最後の臨地実習となりますので課題意識、計画性、積極性を期待します。					

授業科目名 (NS2)成人看護学

代表教官 渡邊 真理

履修者数	138	回答数	115	回答率 (%)	84.56	回答率学部平均 (%)	43.31
------	-----	-----	-----	------------	-------	----------------	-------

質問1 履修動機	第1理由	第2理由	第3理由
1) この授業に関心があったから	23	21	18
2) シラバスを読んで	1	19	13
3) 教員に魅力があったから	0	2	6
4) 自分の専門に関係が深い分野だから	7	21	27
5) 幅広い教養を身につけるため	3	20	21
6) 必修だから	80	26	23
7) 単位が取り易そうだから	0	0	0
8) その他	1	6	7

「質問2」以降の質問内容

質問2	意欲的に受講したか	質問9	教員はコミュニケーションをとる工夫をしていたか
質問3	内容を理解したか	質問10	1週間当たりの平均勉強時間
質問4	考え方、能力、知識、技術などが向上したか	質問11	板書、配布物、提示資料は読みやすいか
質問5	自ら学ぶ意欲は湧いたか	質問12	教員は勉学環境に配慮していたか
質問6	課題を発見し探究する力がついたか	質問13	総合的に判断し良い授業だったか
質問7	教員に勉強は感じられたか		
質問8	教え方はわかりやすかったか		

	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10 勉強時間(X)					質問11	質問12	質問13
	意欲 平均	理解 平均	向上 平均	自発的 平均	探究 平均	勉強 平均	教え方 平均	コミュニ ケーション 平均	3時間以上	2～3時間	1～2時間	30分～1時間	30分未満	板書 平均	環境 平均	総合 平均
担当科目	4.33	4.26	4.32	4.16	4.04	4.41	4.07	3.77	3.5	3.5	14.8	27.8	60.4	4.06	4.14	4.25
学部平均	4.49	4.39	4.47	4.38	4.33	4.63	4.42	4.42	4.5	4.8	12.3	30.5	47.8	4.40	4.48	4.51
学科平均	4.38	4.28	4.35	4.26	4.18	4.51	4.23	4.21	2.8	3.5	11.4	32.7	49.6	4.16	4.28	4.34

科目： (NS2) 成人看護学

担当： 渡邊 真理

質問内容 ・ 回答一覧

質問 14：この授業でよかったと思う点を書いてください。

- ・ 動画があり分かりやすかった。
- ・ 必要そうな単語が沢山出てきたとこ
- ・ 内容が面白い
- ・ 様々な先生から専門的なことを学ぶことができた。
- ・ 教員がかなり熱心だった点
- ・ 授業後に小テストがあったため、授業内容の復習になった。
- ・ 授業終わりに必ず小テストがあったため、復習をすることが出来た。
- ・ 毎授業後の小テスト。
- ・ 口頭で説明するだけでなくビデオ学習があったこと
- ・ テストで確認ができた
- ・ 毎回の授業の後に小テストがあったため、毎回少しずつ知識を定着させることができた。
- ・ 動画があった。
- ・ シラバスが分かりやすかった。
- ・ 毎回小テストがあったので、自分がどのくらい授業を聞いて理解できたのかわかった点。
- ・ 動画やイラストがありわかりやすかった。
- ・ 小テストがあり復習しやすいこと。
- ・ 日本における成人期の特徴や癌患者のケア方法などを学べた。
- ・ レジュメだけでなく動画を通して事例を見ることにより、具体的にどんな看護が必要であるのか捉えることができた点がよかった
- ・ 動画などがあり、分かりやすかった
- ・ 各講師の方が理解しやすい資料を参考に進めてくださりわかりやすかった。
- ・ 資料が見やすく、先生方の講義もわかりやすかった
- ・ 実際の患者の話を聞いたこと。
- ・ 資料がわかりやすかった
- ・ グラフを用いて具体的な説明がなされていた。
- ・ 毎回の小テストで自分の理解度を確かめられた。
- ・ 毎回のミニテストがあり復習しやすい
- ・ 小テストが授業の終わりにあったことで、復習に繋がった

- ・それぞれの分野で担当教員が異なっていたため、非常に分かりやすかった点。
- ・がんや、終末期など様々な成人看護の特徴や、その看護を学ぶことが出来た。
- ・動画などを見ることでより患者さんの気持ちを考えることができた
- ・どちらかと言うと成人の看護に興味があったため、具体的な症例から深めていくという授業内容はわかりやすかったと感じた。
- ・毎回の講義後にテストがあること
- ・部屋を少し暗くしていただき、スクリーンが見やすかった点
- ・一つ一つ丁寧に講義をしてくださったのが良いと感じました。
- ・穴あけでレジュメを作っている先生がいらっしゃって授業の大切なポイントがわかった。
- ・確認問題を manaba で配信してくれたり、テスト勉強で役に立つものを提供して下さること。
- ・講義ありがとうございました。どの先生の講義資料も非常に見やすくとても勉強になりました。
- ・成人についたの疾病や発達段階での変化などを学べる場所
- ・国試でも必要な部分など毎回小テストがあるので集中して授業を受けることが出来た
- ・複数の教員による授業で、それぞれの専門に関連させた内容であったため、深い学びを得ることができた。
- ・講義後の小テスト
- ・毎回授業終わりに小テストがあり講義の復習ができたこと。
- ・現在の看護の多くが高齢者を相手にするため、とてもためになった。
- ・経験豊富な先生方の体験談や経験を聞いたり、実際に疾患を抱えている患者さんの動画などを見たことで患者さんの感情や現実を知ることができたこと。
- ・終末期医療、がん治療に興味があったため、知ることができてよかった。
- ・重要な部分がどこなのか分かりやすかった。
- ・毎回の小テストが授業の復習になったこと。
- ・必要な知識を学ぶことが出来た

質問 15：この授業で良くなかったと思う点、改善すべきと思う点を詳しく書いてください。

- ・電気が明るすぎて、プロジェクターの端っこが見えない
- ・ただただ聞いているだけだったので大事な内容だったとしても授業内で覚えづらい講義であった。
- ・寒い
- ・小テストの解答を後日にでもだしてほしい。正しい解答で復習できない。
- ・室温環境が悪い。
- ・グラフの年が新しくなっていないことがあるためどの年度のグラフの系統を覚えたり、それを元に考えたりすればいいのかわからなかった。
- ・講義を行う教員によって資料の見やすさや内容の濃さがまばらである
- ・かなり幅広い
- ・後半は成人というよりほとんど癌についての授業が続いたため、悪性新生物の死亡率が高いとはいえずすぎて成人ではなくて癌について学んでいるなと感じてしまった。
- ・先生個人の過去の話が多く、関係ある話なら良いのだが、脱線して結局何が言いたかったのかわからなか

った点

- ・ 全部大切なのは大前提分かるけどその中でもより大切な部分はちゃんと説明して欲しかった。
- ・ レジュメの書き込みが多い部分があり、授業がスムーズに進まないため事前にレジュメに書いてあると授業もスムーズに進み、復習しやすくなる
- ・ 小テスト最後のリアクションを書く時間が少ない
- ・ スライドの進みが少し早い
- ・ レジュメの文字が少し小さかったり印刷が滲んでいた部分があり少し見にくかった。
- ・ 教科書を写す資料があったが、量が多く、枠も小さかったので、もう少しレジュメの改善をして欲しい。
あと、がん患者の動画を見る際に、数年前に家族を亡くしたばかりなので、もう少し辛い思いが蘇ってしまうので、そう言った生徒がいることを配慮して欲しい。
- ・ 先生が一方向的に話す内容が多かったから眠くなりやすかった

リフレクション・ペーパー

学科名		看護学科	専攻名	
授業科目		成人看護学	教員氏名	渡邊眞理

アンケート集計結果および担当授業の状況を踏まえ、以下の項目についてご意見をお聞かせください。
(記入欄は適宜増減してお書きください。)

1. アンケート集計結果を踏まえて、今後どのように授業を改善しようと考えていますか。

(前回の集計結果がある方は、前回との比較も含めてください。)

- ・136名の履修者の内、回答者数が115名(84.56%)のため、ほぼ学生の意見が反映されている結果である。
- ・総合評価が保健医療学部平均4.51、看護学科平均4.34より当科目4.25とやや低い評価だった。項目別には保健医療学部平均、看護学科平均より全ての低い項目において当該科目は低かった。
- ・当科目は成人看護学を最初に学習する科目であり、また成人看護学の概論科目のため、どうしても知識中心になりやすく、授業評価が低い傾向になる。中でも「コミュニケーション」の評価が、保健医療学部平均(4.42)、看護学科平均(4.34)のところ、当該科目(3.77)だったことについては、なかなか学生と教師の双方向の授業展開がしづらい内容であるため、今後は改善方法を検討したい。

2. 自由記述欄の学生の意見を踏まえて、今後どのように授業を改善しようと考えていますか。

(自由記述欄の該当部分を引用の上、記述してください。)

- ・授業の最後に小テストを実施したことは「テストで確認できた」「毎回の授業の後に小テストがあったため、毎回少しづつ知識を定着させることができた。」「小テストがあり復習できた」と小テストに対する意見が複数あり、学習効果があった。
- ・本科目は、4名の教員でオムニバス方式で担当し、各教員それぞれの専門性があり、教材や教授方略について違いが出やすいが、このことについては「動画やイラストがあり分かりやすかった」「レジュメだけでなく動画を通して事例を見ることにより、具体的にどんな看護が必要なのか捉えることができた点良かった」「各講師の方が理解しやすい資料を参考に進めて下さり分かりやすかった」「グラフを用いて具体的な説明がされていた」等、教材や授業方略についての意見が多く見られた。
- ・一方で「講義を行う教員によって資料の見やすさや内容の濃さがバラバラである」「全部大事なのはわかるけれど、その中でも大事な部分はちゃんと説明して欲しかった。」等の意見もあり、今後検討をしていく必要がある。

3. 授業において学生の理解度を高めるために特に意図・工夫したことについて記述してください。

- ・ミニテストを毎回実施したこと
- ・ビデオ教材など、体験が少ない学生でもイメージできるよう工夫をした。
- ・グラフの活用など講義内容を深めるための工夫をした。

- ・経験が少ない学生で

4. 授業において問題であると感じたことについて記述してください。

・4名の共人によるオムニバス形式の講義のため、「経験豊富な先生方の体験談や経験を聞いたり、実際に疾患を抱えている患者さんの動画を見たことで患者さんの感情や現実を知ることができた」という意見がある反面、「先生方が一方的に話す内容が多かったから眠くなりやすかった」と学生のレディネスに幅がある本校の学生の特徴を踏まえて、今後も授業展開を検討していきたい。